

Ⅰ 普及活動事例

1 畑かんを生かした生産性の高い産地化の推進

【成果の要約】

本課題を進める上で重要となる通水面積の拡大が図られるように、徳之島地域総合営農推進本部畑かんプロジェクトチームの事務局として、各部会や関係機関と調整を図りながら取り組んだ。今年度は、一部の受益地区で県営工事の完了期間が迫ったため、特に工事の意向確認率や施工同意率向上支援に重点を置いた活動となった。

具体的には、コロナ禍で集合研修の開催が難しい中、年2回発行の畑かんだより等による、全島民向けの情報提供に努め、水利用技術や収益性向上効果を周知徹底し、同意等の推進を行った。また、畑かんマイスター（以下、マイスターという）による水利用展示ほ等の効果もあり、意向確認率は約76%、施工同意率は約49%まで向上した。

畑かん営農を支える経営体の育成については、普及指導員用の推進マニュアルを個別指導等で活用し、畑かん推進を意識した支援・指導を強化した結果、209戸（R3年200戸）に増加した。今後もさらに、畑かん営農技術の実践誘導による所得向上、経営安定が図られるよう支援を図る。

1 対象

畑かん受益地区(予定含)中心経営体、マイスター連携会議、畑かん推進リーダー候補者

2 課題を取り上げた理由

- (1) かん水効果は理解されてきたが、徳之島用水の受益面積3,451haのうち959ha（R4見込み）の通水にとどまっており、意向確認率や同意率向上に向けた取組がさらに必要である。
- (2) 人・農地プランの実質化等と連携した畑かん推進強化とともに、波及効果の高い農家への優先工事や展示ほ取組の継続による早期通水への気運醸成を関係機関と図る必要がある。
- (3) 畑かんを活用する経営体の所得向上支援を継続するとともに、さとうきび植付直後の効果的散水等への周知を関係機関とともに図る必要がある。

3 活動内容と成果

- (1) 畑かん営農推進体制の強化

ア アクションプログラムの実践支援

畑かん営農ビジョンのR4年度取組計画である22の活動項目を、営農推進本部の各部会がスムーズに実践されるよう、営農推進本部の部会長等会議で年3回進捗状況を確認しながら進めた。

畑かんプロジェクトチーム事務局として畑かん同意推進、経営体リスト整備、各種研修会の実施、受



畑かんプロジェクトチーム定例会

益地区の実態把握等について関係機関と取り組んだ。

(2) 畑かん営農を支える経営体の育成

ア 早期通水と効果的水利用の実践推進

今年度は、さらなる意向確認率や施工同意率向上に向け、年2回の畑かんだよりの他、各町の防災無線の活用や毎月のパンフレット配布による全島民向けの情報提供に努め、水利用技術や収益性向上効果を周知徹底し、同意等の推進を行った。その結果、意向確認率は約76%（4月時点62%）、施工同意率は約49%まで（4月時点43%）向上した。

畑かんだより

各町パンフレット

イ 畑かん活用を担う経営体の育成

畑かん営農を支える経営体の育成については、普及指導員用の推進マニュアルを個別指導等で活用し、畑かん推進を意識した支援・指導を強化した結果、209戸(R3年200戸)に増加した。

畑かん推進マニュアル（普及指導員用）

畑かん推進マニュアル（普及指導員用）

(3) 畑かん営農推進リーダーの育成による理解促進

ア 畑かんマイスターの組織活動強化と水利用の拡大推進

マイスター連携会議定例会を年3回開催し、関係機関と語る会や先進地研修等を計画通り実施した。また、マイスターのほ場で展示ほを設置し、水利用促進の波及に務めた。



関係機関と語る会



南薩への先進地研修



沖永良部島との意見交換会

イ リーダー活動の充実・支援

コロナの影響もあり、各地区の水利用組合総会や散水器具取扱研修等は実施できなかったが、営農技術・経営研修とロールカーによる散水実演会を開催した。さらに、今年度は、マイスターの展示ほの視察研修を行い、水利用技術や収益性向上効果等の理解を深めた。



研修会でのマイスターの発表



ロールカー実演会

(実証・展示ほを活用した水利用技術の向上・普及)

以下、各部門毎(13か所 8品目)の取組状況

(ア) さとうきび

かん水対策の展示ほを設置し、水利用の推進を図った。



かん水車による全面かん水

トラクタによる植え溝かん水

(イ) 飼料作物

展示ほは、R3年度に引き続き、トランスバーラ(徳之島町)とトールフェスク(天城町)のほ場で設け、畜産部会では8月10日に現地検討会を行った。また、各町肉用牛振興会には設置場所を紹介し、情報提供を行った。また、畑かん利用によりトランスバーラ等の粗飼料増産を図り、増頭に成功している事例をまとめ、飼料作物での畑かん利用を推進した。



トランスバーラ実証ほ



トールフェスク実証ほ



畑かん利用での飼料増産事例を作成

(ウ) ばれいしょ

島内4か所(徳之島町南原地区、天城町兼久地区、伊仙町伊仙地区、伊仙町阿権地区)に畑かん効果展示ほを設置し、栽培期間を通じて試験成績等を掲示した。また、畑かん活用による増収および所得向上効果について資料を配布し、畑かん利用技術の普及・啓発に努めた。



畑かん展示ほ（伊仙）



畑かんによる所得向上効果

(エ) ばれいしょ以外の野菜

マイスターと連携し、かぼちゃ、さといも、実えんどう及びえだまめの水利用効果展示ほを設置し、栽培期間を通じて試験成績等を掲示した。また、畑かん活用による増収および所得向上効果について技術指導を行い、畑かん利用技術の普及・啓発に努めた。



実えんどう展示ほ



さといも展示ほ

(オ) 花き

トルコギキョウにおいて焼酎かすを使った土壌還元消毒時に大量に水が必要となるため、畑かんを使った展示ほを設置した。島内研修や島外からの視察現地ほ場に選定し、畑かん利用周知や紹介を行った。



焼酎かす投入後のかん水



展示ほでの研修

(カ) 果樹

マンゴーは萌芽期から収穫期後までかん水が必要な品目であり、生産者は水の重要性を十分認識している。

マンゴーのせん定講習会において、せん定後にかん水を十分行うことで、せん定後の新梢の萌芽及び伸長が良好となることを周知した。



マンゴーせん定講習会

4 今後の課題

水利用効果は理解されてきたが、徳之島用水の受益面積3,451haのうち959ha（R4見込み）の通水にとどまっており、意向確認率や同意率向上に向けた取組がさらに必要であり、そのためには、人・農地プランの実質化等と連携した畑かん推進強化とともに、マイスター以外の波及効果の高い農家にも展示ほの取組を広げるなど、早期通水への気運醸成を関係機関と図る必要がある。また、今後とも畑かん利用による収益性向上効果と経営安定事例を波及し、儲かる経営体の育成支援に努める。

5 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇福元，樋口，有村，若志，大迫，能口，脇田，松ノ下
（白石，濱田）